

オリンピック・パラリンピック準備局長の海外出張について

1 出張先

英国・ロンドン市

2 出張期間

平成 26 年 8 月 3 日（日曜日）から同月 7 日（木曜日）まで

3 出張目的

2020 年東京大会で、都が新規建設する恒久施設の後利用については、大会後も有効活用され、都民・国民に末永く親しまれるものとなるよう、より具体的な検討が必要である。

検討にあたり、競技施設の後利用の現状や課題、その対応等、過去大会の詳細な情報が参考になると考えられるため、現地関係者に対し、ヒアリングを実施する。

また、施設整備の観点から、アクアティクスセンター（水泳）・ベロドローム（自転車）・ホワイトウォーターセンター（カヌースラローム）等について、実地調査を行う。

4 出張人数

計 6 名

（中嶋オリンピック・パラリンピック準備局長、オリンピック・パラリンピック準備局職員 5 名）

5 総経費

3,287,800 円

6 出張先での行動

8 月 3 日（日）	<ul style="list-style-type: none">・日本出発・現地到着・競技会場視察 <p style="text-align: right;">【ロンドン泊】</p>
8 月 4 日（月）	<ul style="list-style-type: none">・競技会場視察・文化・メディア・スポーツ省 往訪・大ロンドン庁 往訪 <p style="text-align: right;">【ロンドン泊】</p>
8 月 5 日（火）	<ul style="list-style-type: none">・競技会場視察・ロンドンレガシー開発公社 往訪 <p style="text-align: right;">【ロンドン泊】</p>

8月6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会場視察 ・リーバレー地域公園局 往訪 ・現地出発 <p style="text-align: right;">【機中泊】</p>
8月7日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本到着

7 出張の成果

オリンピック・パークの現状や、競技会場の活用状況などを視察するとともに、ロンドン大会の関係者と競技会場の見直しの実例や後利用を踏まえた競技会場とすることの重要性、スポーツの裾野の拡大をはじめとした大会のレガシーなどについて意見交換を行った。

2020年大会においては、ロンドン大会での取組や会場見直しの例も参考にしつつ、東京の実情を踏まえた視点から、大会の成功はもとより、大会終了後も広く都民の共有の財産として末永く利用されるよう、引き続き検討を進めていく。



文化・メディア・スポーツ省往訪時



アクアティクスセンター